

医師の紹介率の低さが乳房再建を制限

調査の結果、乳房切除後のアメリカ人女性の16%しか再建手術を受けていないことが判明

Washington Post ホームページより和訳

<<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2007/03/26/AR2007032600435.html>>

新しい研究によると、アメリカでの乳房再建手術率の低さの原因の一つは、開業医(general doctor)が乳癌と診断した患者の、形成外科医(plastic surgeon)への紹介率の影響かもしれない。

5月1日発行の“Cancer”に掲載されている研究の予備知識によれば、手術費用は保険が適応されるにもかかわらず、乳房切除を受けたアメリカ人女性の16%しか再建を受けていない。それ以前の調査では、年齢や人種が手術率の低さの原因だとされていたが、それに加え、医師の紹介や情報共有の習慣の有無が影響しているのかもしれない。

ミシガン州 Ann Arbor とロサンジェルス の 456 名の開業医(general doctor)への調査では、乳癌患者と治療の計画をしていく上で、乳房再建を行う医師への紹介を、25%の医師しか行っていなかった。

特に、44%の開業医(general doctor)は、再建を受けられる全患者の25%以下しか、乳房再建の診察のための形成外科医への紹介をしていない。一方で、24%の医師は75%以上の患者を形成外科医に紹介している。

研究では、年に50件以上の手術を行っている女医や癌治療センターで勤務する医師は、再建を受けられる患者を高い比率で紹介していることがわかった。

紹介率が低い医師は、患者への理解不足、高額な費用、形成外科医の不足などを、患者の紹介を行っていない理由としている。また紹介をしていない医師の多くは、乳癌の治療を行っていく上で、患者にとって再建の優先順位は低いと考えており、それよりも考慮しなければいけないことがあると述べている。

この研究の著者は、次のように結論付けている。「乳癌の外科手術を決定する前に、患者を形成外科医へ紹介をすることに関しては、医師の間に組織的な相違がある。共同治療への最も大きな障害は、紹介が困難で、限られた資料しかないような小規模な施設にあるのかもしれない。」

翻訳:株式会社 総見
国際マーケティング部